



since 1986

## 健康と温泉フォーラム第102回月例研究会

テーマ 「草津温泉に学ぶ温泉の今後の展望」 (ハイブリッド (ONLINE・ライブ) 形式)

-Focusing on the Kusatsu - Onsen for Studying Thermalism in the Age to Come-

- 主催：特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム
- 共催：一般財団法人日本健康開発財団 特定非営利活動法人日本スパ振興協会 地域活性学会
- 併催：日本温泉気候物理医学会温泉療法医研修プログラム (1単位)
- 日時：2022年11月21日(月) 13:00~17:00 入室12:30~
- 会場：北とぴあ6階ドームホール (東京都北区王子1-11-1JR王子駅前) (会場定員100名)
- 会費：ライブ・ONLINE 共 2千円 (会員) 3千円 (一般) 学生・報道 無料 (ライブのみ定員有)
- プログラム

### 1300 開会 第1部「温泉医学と今後の展望」(ライブ&ONLINE)

#### ○「温泉医学と保養地学」白倉卓夫 (群馬大学名誉教授) (ライブ)



経歴：群馬大学大学院修了後内科学を専攻 旧群馬大学草津分院長、日本温泉気候物理医学会会長 健康と温泉フォーラム会長を歴任

温泉が物理的 (浮力、水圧、温熱)、化学・薬理的 (血管拡張、殺菌、創傷治癒促進など) に身体に作用し、その連続浴は体調の変化をもたらすことが知られており、これらの効果を期待した休養、保養、療養がわが国では古くから行われてきた。近代医療の普及した現在、温泉はいくつかの疾患の薬物治療の補完代替療法の一つとして使われ、多くは休養として利用されている。温泉の連続浴には歪んだ体内機能リズムを是正する効果が指摘されており、“不健康”状態を体の中から修復する温泉療法として期待される。温泉プラス環境要因 (気象、地形、森林など) を包含したわが国特有の温泉保養地、それを支える保養地学の確立の期待は大きい。

#### ○「温泉保養地に於ける糖尿病の温泉療法」大塚吉則 (札幌国際大学スポーツ人間学部特任教授) (ONLINE)



経歴：1979年北海道大学医学部卒業、1989年コーネル医科大学研究留学、1991年北大附属病院登別分院・温泉治療研究施設勤務、1993年ミュンヘン大学温泉治療研究施設研究留学、2006年北海道大学教授 2018年札幌国際大学教授

温泉入浴は39℃から40℃程度で1日2~3回、4週間継続し、温泉プールでの水中運動などを行う。2週後には食後血糖値が200mg/dlを切るようになり、4週後にほぼ正常化する。カロリー消費、自然環境内での運動、ホルモン分泌や自律神経作用の安定化、温泉成分皮膚吸収などが重要である。

### 1420 第2部「近代温泉史に学ぶ今後の温泉」(ライブ)

#### ○「草津温泉の近代一地域形成史とイメージの変遷」関戸明子：(群馬大学共同教育学部教授)



経歴：1992年、群馬大学講師 助教授・准教授を経て2010年より現職

専門は歴史地理学・人文地理学 単著『近代ツーリズムと温泉』ナカニシヤ出版、2007年『草津温泉の社会史』青弓社、2018年 共編著『近代日本の視覚的経験 絵地図と古写真の世界』2008年 草津温泉は、さまざまな旅するイメージが会合場所となってきました。温泉と共同浴場という地域資源に着目して、近代における地域形成の過程について概観します。さらに、鳥瞰図や紀行文によって、草津がどのように描かれてきたのかを跡づけて、イメージの変遷を読み解きます。

#### ○「草津温泉の近代地域経営史一官民の取り組み」中澤 敬 (群馬県温泉協会会長、元草津町長)



経歴：草津温泉に生まれ、若年時代の長い海外留学経験から身につけた国際感覚と、草津温泉旅館組合理事長、草津町長、草津温泉観光協会会長、群馬県温泉協会会長 (現在) というそれぞれに違った 立場の役職を歴任した経験を通して得た包括的見地から、今後の日本の温泉の在り方を提唱 する。全国人気温泉地ランキング (観光経済新聞社) において、19年連続1位の座を保持しているのは？その要因と秘密！・草津温泉の今まで、そして現在の地域の歩みを顧みつつ、これからの温泉地の在り方を考える。

1550 休憩

1600 第3部 質疑応答 (ライブ&ONLINE)

1700 閉会

